

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校穴吹 IT ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	情報システム学科		61 単位 (1770 時間)	10 単位	
	ネットワークセキュリティ学科		54 単位 (1400 時間)	7 単位	
	AIテクノロジー学科		49 単位 (1410 時間)	10 単位	
商業実務専門課程	未来創造ビジネス学科 DX・IT ビジネス専攻		27 単位 (570 時間)	7 単位	
	未来創造ビジネス学科 不動産ビジネス専攻		47 単位 (1090 時間)	7 単位	
文化教養専門課程	外語ビジネス学科		15 単位 (430 時間)	7 単位	
	公務員ビジネス学科		0 単位 (0 時間)	7 単位	※
	公務員学科		0 単位 (0 時間)	4 単位	※
教育・社会福祉専門課程	こども保育学科		45 単位 (707 時間)	7 単位	
衛生専門課程	パティシエ・ベーカリー学科		43 単位 (1220 時間)	7 単位	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/">https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 公務員ビジネス学科・公務員学科
---------------------

(困難である理由)
-----------

本学科は、国家公務員（高卒者試験）・地方公務員（初級）の採用試験合格を目指し、一般知識・一般知能の科目を中心に指導しているため、実務経験のある教員による指導が困難です。
--

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校穴吹 IT ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元銀行頭取	令和7年5月～令和9年6月	企画・調整
非常勤	新聞社代表取締役	令和7年5月～令和9年6月	企画・調整
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校穴吹 IT ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。

※シラバスの主な記載項目

(1)科目名

その授業の科目名を記載します

(2)学科/学年

授業を行う学科名および学年を記載します

(3)年度/時期

授業を行う年度および時期（前期・後期）を記載します  
単位制の場合は標準履修年次を記載します

(4)授業形態

講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します

(5)単位数または時間数

学則に記載している時間数を単位換算したものを記載します

講義：15～30時間を1単位とする

演習：15～30時間を1単位とする

実習：30～45時間を1単位とする

時間数は90分授業の場合、1コマ＝2単位時間

(6)必須・選択必修・自由選択

必須授業もしくは選択必修、自由選択授業について記載します

(7)担当教員

授業を担当する教員名を記載します

複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します

(8)授業の概要

授業の概要、趣旨を記載します

授業を行うのは教員のため、教員を主語として具体的に記入します

(9)授業終了時の到達目標

授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します

目標を達成するのは学生のため、学生を主体として記載します

(10)実務経験有無 実務経験内容

担当者教員の実務経験の有無と実務経験内容を記載します

<p>(11) 時間外に必要な学修 授業外で行っておくべき学修内容を記載します</p> <p>(12) テーマ 内容 授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記入します ※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります</p> <p>(13) 教科書・教材 使用する教科書や参考書、教材等を記載します</p> <p>(14) 評価基準 評価率 その他 評価方法について記載します また、評価基準についてそれぞれの項目の評価率を記載します その他評価に関する特記事項があれば記載します</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/">https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p><b>【学生便覧より抜粋】</b></p> <p>(成績評価)</p> <p>成績評価は原則として、年2回の期末に各科目毎の評価を行う。 成績評価は、期末試験の他、出席率・確認テスト・課題・レポート・検定取得状況・授業態度等を参考に総合的に評価する。 評価基準は、A、B、C、Dの4段階とし、A～Cを合格（単位履修）とする。</p> <p>A：科目に対する理解及び日常の学習状況等が著しく優秀な者 (成績評価が80点以上)</p> <p>B：科目に対する理解及び日常の学習状況等が良好な者 (成績評価が70点以上79点以下)</p> <p>C：科目に対する理解及び日常の学習状況等がやや劣る者 (成績評価が60点以上69点以下)</p> <p>D：科目に対する理解及び日常の学習状況等が著しく劣る者 (成績評価が60点未満)</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

**【学生便覧より抜粋】**

(成績評価に係る指標の算定方法)

学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【学生便覧より抜粋】

(卒業条件)

- ・成績評価すべてC以上（単位取得）であること
- ・年間出席率が80%以上のこと
- ・学費が納入されていること

学科	卒業認定方針
情報システム学科	コンピュータ全般の知識、プログラミング、システム設計、ネットワーク、サーバー構築などの技術を習得させ、ユーザの要望を満たす業務システムやスマートフォンのアプリ開発ができる技術と企画提案力を兼ね備えた人材の卒業を認定する
ネットワークセキュリティ学科	コンピュータ全般の知識、ネットワーク設計、サーバー構築、情報セキュリティなどの技術を習得させ、個人・企業・社会におけるすべての情報インフラ基盤を支える堅牢な技術と情報モラルを兼ね備えた人材の卒業を認定する
AIテクノロジー学科	コンピュータ全般の知識、プログラミング、システム設計、データベース操作、Webアプリケーション開発などの技術に加え、AI、IoT、ビッグデータ、クラウド等の最先端技術を使いこなし、社会に新しい価値を生み出せる人材の卒業を認定する
未来創造ビジネス学科	デジタル技術を活用して新たなビジネスを創造できるITスキルを習得するとともに、地域社会の課題をビジネスとITの両方の視点から捉えて解決できる提案力を身につけ、デジタル社会に一步踏み出せる人間力を兼ね備えた人材の卒業を認定する
外語ビジネス学科	国内外の幅広い業界で活躍できるグローバル人材を育成するために、英語・中国語・韓国語と同時にビジネス・サービス系スキルの習得するとともに、外語系大学進学や海外留学により知見を広げ、語学力の更なるスキルアップやキャリアアップを目指す人材の卒業を認定する
公務員ビジネス学科	公務員として必要な資質を修得させるとともに、ボランティア精神など豊かな人間性とビジネス能力を兼ね備えた人材の卒業を認定する
公務員学科	公務員採用試験の合格だけでなく各種ビジネス技能の習得とコミュニケーション能力の向上を図り、ボランティア精神など豊かな人間性とビジネス能力を兼ね備えた人材の卒業を認定する
こども保育学科	こどもを取り巻く環境を理解し、さまざまな問題に対応できる幅広い知識と豊かな感性、保育技術をもった人材の卒業を認定する
パティシエ・ベーカリー学科	食の安全に関する知識を習得し、製菓・製パン部門における高度な専門技術や知識を身に付けた人材の

	卒業を認定する
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<a href="https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/">https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/</a>

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校穴吹 IT ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf">https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf">https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf</a>
財産目録	<a href="https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_zaisan-1.pdf">https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_zaisan-1.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_jigyohoukoku-1.pdf">https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_jigyohoukoku-1.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf">https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	97単位	38単位	59単位			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		52人	1人	5人	5人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 【様式2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(成績評価に係る指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(卒業条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上(単位取得)であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	17人 (94.4%)	1人 (5.6%)
(主な就職、業界等) システムエンジニア職、プログラマ職、IT関連企業等			
(就職指導内容) 社会人基礎講座(履歴書の書き方、電話応対、マナー等)、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験 合格:38.8%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状
---------

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56人	2人	3.6%
(中途退学の主な理由) 就職、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ学科	○	—				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	71単位	30単位	41単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
30人	12人	0人	5人	3人	8人			

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (卒業条件) ・成績評価すべてC以上(単位取得)であること ・年間出席率が80%以上のこと

<p>・学費が納入されていること</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)          &lt;個別相談・指導等の対応&gt;          担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	12人 (92.3%)	1人 (7.7%)
(主な就職、業界等) ネットワークエンジニア、セキュリティエンジニア、IT関連企業 等			
(就職指導内容) 社会人基礎講座(履歴書の書き方、電話応対、マナー等)、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験 合格:23.0%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	AIテクノロジー学	○	—

		科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	96単位	38単位	58単位			
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
45人	19人	0人	5人	6人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p><b>【様式2号の3より再掲】</b></p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>（成績評価に係る指標の算定方法）</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>（卒業条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上（単位取得）であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア職、プログラマ職、IT 関連企業 等			
（就職指導内容） 社会人基礎講座（履歴書の書き方、電話応対、マナー等）、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験 合格：57.1%			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	0人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	未来創造ビジネス学科 (DX・IT ビジネス専攻)	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	76単位	34単位	41単位	1単位		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人の内数		13人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>(概要)</p> <p><b>【様式2号の3より再掲】</b></p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(成績評価に係る指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(卒業条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上(単位取得)であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) なし			

(就職指導内容) 社会人基礎講座（履歴書の書き方、電話応対、マナー等）、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援
(主な学修成果（資格・検定等）) なし
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	未来創造ビジネス学科 (不動産ビジネス専攻)	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	84単位	62単位	33単位	1単位		
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人の内数	16人	1人	3人	4人	7人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 【様式2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(成績評価に係る指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(卒業条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上(単位取得)であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) なし			
(就職指導内容) 社会人基礎講座(履歴書の書き方、電話応対、マナー等)、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
(主な学修成果(資格・検定等)) なし			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状
---------

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門課程	外語ビジネス学科	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	9.7単位	8.2単位	1.3単位	2単位		
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	7人	1人	4人	7人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (卒業条件) ・成績評価すべてC以上(単位取得)であること ・年間出席率が80%以上のこと

<p>・学費が納入されていること</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)          &lt;個別相談・指導等の対応&gt;          担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 営業職、販売職、総合職、飛行場業務 等			
(就職指導内容) 社会人基礎講座(履歴書の書き方、電話応対、マナー等)、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定2級合格:60.0%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化教養	文化教養専門	公務員ビジネス学科	○	—

		課程							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	66単位	20単位	46単位					
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
30人	24人	0人	3人	3人	6人				

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p><b>【様式2号の3より再掲】</b></p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>（成績評価に係る指標の算定方法）</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>（卒業条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上（単位取得）であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 国家公務員、地方公務員			
（就職指導内容） 社会人基礎講座（履歴書の書き方、電話応対、マナー等）、面接指導の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による支援			
（主な学修成果（資格・検定等）） 公務員1次試験合格：100%、最終合格：100%			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	1人	5.9%
（中途退学の主な理由） 環境不順応		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養		文化教養専門課程	公務員学科	—	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1年	昼間	33単位	10単位	23単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
25人		9人	0人	3人	3人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>(概要)</p> <p><b>【様式2号の3より再掲】</b></p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(成績評価に係る指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b></p> <p>(卒業条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上(単位取得)であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	14人 (93.3%)	1人 (6.7%)
(主な就職、業界等) 国家公務員、地方公務員			

(就職指導内容) 社会人基礎講座（履歴書の書き方、電話応対、マナー等）、面接指導の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による支援
(主な学修成果（資格・検定等）) 公務員1次試験合格：100%、最終合格：93.3%合格
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	こども保育学科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	100単位	52単位	42単位	8単位		1単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		39人	0人	6人	8人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 【様式2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b>  (成績評価に係る指標の算定方法)  学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p><b>【様式第2号の3より再掲】</b>  (卒業条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価すべてC以上(単位取得)であること</li> <li>・年間出席率が80%以上のこと</li> <li>・学費が納入されていること</li> </ul> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。  ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>&lt;個別相談・指導等の対応&gt;  担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
(主な就職、業界等) 保育所、幼稚園、認定こども園 等			
(就職指導内容) 社会人基礎講座(履歴書の書き方、電話応対、マナー等)、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
(主な学修成果(資格・検定等)) 保育士、幼稚園教諭2種免許、社会福祉主事(任用資格)合格:100%			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
衛生	衛生専門課程	パティシエ・ベーカリー学科	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62単位	21単位	39単位	5単位	2単位	
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	39人	0人	3人	25人	28人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (卒業条件) ・成績評価すべてC以上(単位取得)であること ・年間出席率が80%以上のこと

<p>・学費が納入されていること</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)          &lt;個別相談・指導等の対応&gt;          担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	16人 (88.9%)	2人 (11.1%)
(主な就職、業界等) 製菓、製パン業 等			
(就職指導内容) 社会人基礎講座（履歴書の書き方、電話応対、マナー等）、就職研修(面接指導)の実施、業界研究、個別ガイダンス、就職担当部署による就活支援			
(主な学修成果（資格・検定等）) 製菓衛生師 合格：100%			
(備考)（任意記載事項） ( )内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	5人	12.8%
(中途退学の主な理由) 病気、進路変更、対人関係の悪化 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の動機付けを行うとともに、教員面談や保護者面談を通じて、心理面・健康面・学習面等の支援を実施し、課題解決支援および通学意欲の維持・向上について、学校全体で取り組む。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報システム学科	160,000 円	1,030,000 円	105,000 円	
ネットワーク セキュリティ学科	160,000 円	1,030,000 円	155,000 円	
AI テクノロジー学科	160,000 円	1,030,000 円	105,000 円	
未来創造ビジネス学科 (DX・IT ビジネス専攻)	160,000 円	1,000,000 円	157,000 円	
未来創造ビジネス学科 (不動産ビジネス専攻)	160,000 円	1,000,000 円	147,000 円	
外語ビジネス学科	160,000 円	1,000,000 円	197,000 円	
公務員ビジネス学科	160,000 円	950,000 円	148,000 円	
公務員学科	160,000 円	950,000 円	168,000 円	
こども保育学科	160,000 円	850,000 円	410,000 円	
パティシエ・ ベーカリー学科	160,000 円	1,100,000 円	330,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://web.anabuki-college.net/wp-content/uploads/2025/10/4185f4d3376c264d16244344dd8d4378.pdf">https://web.anabuki-college.net/wp-content/uploads/2025/10/4185f4d3376c264d16244344dd8d4378.pdf</a>
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制) ・より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、本校の自己評価の結果を評価する。 ・主な評価項目は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式の評価項目(教育理念・目標、学校運営、教育活動、学習成果、学生支援。教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流)である。 ・評価結果を踏まえ、職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画を検討し、教務部長が中心となってPDCAサイクルを繰り返し続ける。
【学校関係者評価委員会規定より抜粋】 (委員の委嘱等) 委員会を構成する委員は、5名以上とし、本校の職員以外の者で次に掲げる者のうちから、校長が委嘱する。 (1) 保護者 (2) 本校の卒業生 (3) 地域住民 (4) 企業関係者 (5) 高等学校関係者 (6) その他教育に関する有識者

第三者評価の委員		
所属	任期	種別
香川県高等学校 校長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	高等学校関係者委員
(株)穴吹カレッジサービス 事業部長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員 (情報分野)
穴吹興産(株) オペレーションディレクター	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員 (ビジネス分野)
あなかれほいくえん(高松) 事務長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員 (保育分野)
(有)サンファソン 代表取締役	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業団体委員 (製菓分野)
専門学校穴吹 IT ビジネスカレッジ 保護者会 支部長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	保護者委員
	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	卒業生委員
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://web.anabuki-college.net/wp-content/uploads/2025/10/e8e40bb714838022d1cfe088881ea32b.pdf">https://web.anabuki-college.net/wp-content/uploads/2025/10/e8e40bb714838022d1cfe088881ea32b.pdf</a>		
(備考)		
第三者評価は実施していないため、学校関係者評価の情報を記載している。自己点検および学校関係者評価結果については、学校再編に伴う校名変更のため、変更前の「穴吹ビジネスカレッジ」の情報を掲載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://web.anabuki-college.net/">https://web.anabuki-college.net/</a>
--